

■成果指標

指標	単位	現状値		実績値				目標値
				R4	R5	R6	R7	
1	かめやまホームケアネット登録者数(累計)	人	130	R2	205			320
2	総合事業で高齢者に通いの場を提供する地域の団体等の数	団体	115	R2	102			120
3	認知症初期集中支援チームの高齢者及びその家族への支援件数	件	24	R2	52			50
4								
5								
6								
7								
8								

■市民アンケート調査

項目	現状値 [R2]	1次 [R5]	2次 [R6]	市民アンケートの考察
1 高齢者が生きがいを持って安心して生活できる環境が整っている	重要度 1.24 満足度 ▲ 0.53			令和5年度の市民アンケートの結果を踏まえて、次年度に考察します。
2 高齢者への介護サービスが充実している	重要度 1.34 満足度 ▲ 0.05			
3	重要度 満足度			
4	重要度 満足度			
	重要度 満足度			

■施策推進 [施策の方向]

施策の方向	施策推進に関する考察
① 地域包括ケアシステムの推進	高齢者が安心して地域で生活できるよう、在宅医療等ニーズに応じた医療・介護サービスを提供できる体制を強化しており、生活支援サービスの体制整備を継続する。
② 介護予防の推進	高齢者が気軽に参加できる活動の場づくりを進め、地域における自助・互助・共助の活動を支援しており、今後は、保健事業と介護予防の一体的な取り組みを推進する。
③ 高齢者の生活と生きがいづくりの支援	サロン活動等で、仲間づくりや生きがいづくり、社会参加、地域における見守りや支え合いの活動を支援しており、今後は、高齢者の多様な就職機会の確保を図っていく。
④ 認知症高齢者等対策の推進	認知症に関する知識の普及啓発と早期発見・治療の重要性について周知しており、今後も地域での認知症への理解促進を図りつつ、認知症の人や家族を支援していく。
⑤	
⑥	
⑦	

総合評価

地域包括ケアシステムの推進については、亀山医師会、市立医療センター等医療職や地域包括支援センター等の介護職による多職種連携により、在宅医療連携や認知症本人や家族へ支援を進め、講演会の開催や広報等で市民理解や周知を図ることができた。介護予防の推進については、新型コロナウイルス感染症の影響により、高齢者フレイル予防支援に電話や案内通知などで取り組んだが、介護予防教室の中止等を余儀なくされた。保険事業と介護予防の一体的実施の強化が必要である。高齢者の生活と生きがいづくりの支援については、高齢者の相談等に対し、基幹包括支援センター及び地域包括支援センターを窓口にも重層的支援体制等により複合的な課題を抱える個別ケースの対応強化を図ることができた。一方で、新型コロナウイルス感染症の影響からサロン開催回数が減少し、また高齢者の社会参加の促進や就職機会の確保を進めるため、シルバー人材センターやサロン活動、老人クラブなどの団体への支援を継続しているものの、地域団体や組織の縮小からその会員数が減少し、シルバー人材センターの登録者も同様に減少しており、前年度からの課題の解消に至っていない。住民主体の介護予防と生活支援を一体的に展開できる「ちょこボラ」の全市的な広がりに向け、継続的な体制づくりの支援が必要である。認知症高齢者等対策の推進については、認知症サポーターの継続的な養成に取り組む、市民への認知症への理解を広げるとともに、認知症初期集中支援チームを中心に認知症の高齢者とその家族を支援できた。更に成年後見制度の体制整備が図れたことから、認知症施策の強化に繋がった。

B

まずは進んだ

今後の展開方針

高齢者の増加や多様化・複雑化する相談内容に対応するため、地域包括支援センターと連携し、地域包括ケアシステムの深化・推進の取り組みを継続し、保健事業と介護予防の一体的実施や国保データベースを活用した地域特性に応じた介護予防の取り組みを進める。既に立ち上がった「ちょこボラ」を継続支援しつつ、生活支援コーディネーターとの連携により他の地域まちづくり協議会への働きかけを強化し、全市展開につなげる。シルバー人材センターのQOL支援事業の再構築を図るとともに、地域のサロンや老人クラブの活動を継続支援していく。認知症高齢者の権利擁護については、市長申立等の支援を行いつつ成年後見サポート事業の活用を進め、その制度の周知を徹底する。総じて、健康政策に係る各種事業を含め高齢者の健康寿命の延伸に繋げ、市民の自発的な健康への取り組み、また高齢者のフレイル対策を進める。